

令和7年度 発生予察情報	発生予報第 10 号（概要版）	令和7年 10 月 21 日発行 宮城県病害虫防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	------------------------	---

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
きゅうり	うどんこ病	発生量: やや多	褐斑病	発生量: 平年並
	べと病	発生量: やや多	コナジラミ類	発生量: 多
いちご	うどんこ病	発生量: 平年並	コナジラミ類	発生量: 平年並
	ハダニ類	発生量: 平年並		

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第11号の発行日は11月21日（金）の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★




宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム

ー11 月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:10 月 14～16 日

天候予報:仙台管区気象台 10 月 16 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く(/ +)、発病葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ± ～ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ± ～ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く(/ +)、発病葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年よりやや高かった。(/ +)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ～ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・発生はほぼ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2)うどんこ病

- ・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。また、一見病徴が見えない場合でも、うどんこ病に効果のある殺菌剤をローテーションに組み込み、防除を実施する。

(3)褐斑病、べと病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。
- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。
- ・褐斑病、べと病は多湿と濡れにより発生が増加するので、整枝・摘葉で群落内部の通気性を確保するとともに適切な湿度管理を行う。

(4)コナジラミ類

- ・主に葉裏に寄生し吸汁加害するので、ほ場をよく見回り早期発見、早期防除に努める。
- ・コナジラミ類にはオンシツコナジラミ(図1)とタバココナジラミ(図2)があり、タバココナジラミはキュウリ退緑黄化病(病原ウイルス: *Cucurbit chlorotic yellows virus*, CCYV)を媒介するので注意する。



図1 オンシツコナジラミ成虫

体長約1.2mm。翅や体は白色で、翅は後端部で重なり、間から腹部が見えない。

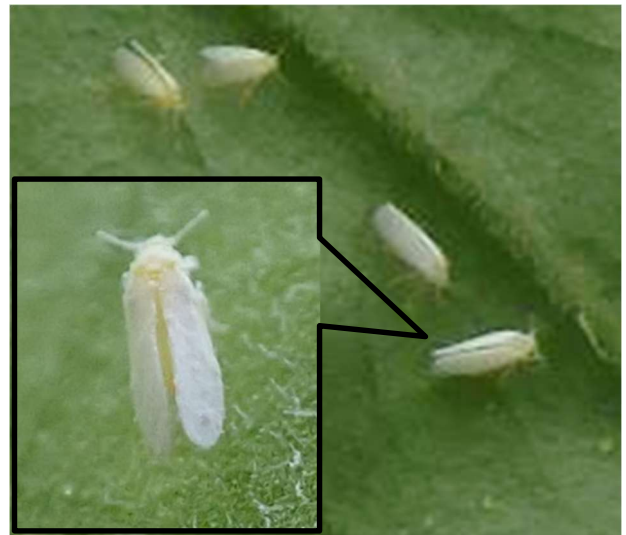


図2 タバココナジラミ成虫

体長約1mm。翅は白色だが、体色が黄色っぽく、羽が重なり合っていないため、隙間がある。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第10号ーいちごー	令和7年10月21日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	----------------------	---------------------------

ー11月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:10月14～16日

天候予報:仙台管区气象台 10月16日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、発病株率は平年よりやや低かった。(/ー)
- (2)胞子の発芽適温が20℃前後であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/±～+)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く(/ー)、寄生株率は平年並であった。(/±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く(/ー)、寄生株率は平年並であった(/±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/±～+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- ・IPM体系による防除は下記を参照する。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版(PDF:6,731KB) https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

- ・天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2)うどんこ病

- ・適切な温度管理、葉かき作業と予防防除を組み合わせ、発病予防に努める。
- ・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。また、一見病徴が見えない場合でも、うどんこ病に効果のある殺菌剤をローテーションに組み込み、防除を実施する。

(3)コナジラミ類

- ・主に葉裏にいたので、薬剤散布は葉の表だけでなく植物体全体にかかるように散布する。

(4)ハダニ類

- ・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。
- ・天敵を使用する場合は、ハダニ類がまだ低密度で散見され始めた時に最初の放飼を行う。ハダニ類が多発している場合は、天敵放飼前に化学合成農薬や気門封鎖剤等でハダニ類の密度を低下させておく。
- ・気門封鎖剤は、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布するとともに、薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- ・気門封鎖剤の多くは、ハダニ類の幼虫～成虫に効果を発揮し、卵には効果を示さないので、最初に気門封鎖剤を散布し、ハダニ類の卵がふ化した後に2回目以降の散布を行う(ハダニ類は25℃条件下で卵から3日程度でふ化、その後7日程度で成虫になる)。多発時は複数回散布する。
- ・紫外光(UV-B)を葉の表と裏に照射することにより、うどんこ病だけではなくハダニ類の密度も抑制されるので、本ほに UV-B 電球形蛍光灯を設置している場合は、ハダニ類の防除の一環として葉の裏にも UV-B を当てるため花房受けに光反射資材の設置を行う。

※「普及に移す技術」第96号(令和3年発行)指導活用技術20「促成イチゴにおける UV-B 電球形蛍光灯と反射資材の併用による ハダニ類抑制効果(追補)」 <https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/847341.pdf>

(5)ハスモンヨトウ

- ・食害が広範囲で確認されており、本県への成虫の飛来は11月上旬頃まで続くと考えられる。
- ・台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
- ・幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するとされるので、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。薬剤防除を行う際は、天敵や訪花昆虫に影響が少ない剤を選択する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム